

例祭 四月十六日 他年中恒例祭儀
 社殿 本殿二×二間半 本造 拝殿五×三間 祝詞殿
 二×二間 旗竿置場五坪 社地二五坪
 境内社 琴平社 天神社 秋葉社 蓋影社
 田金井村の産土神であり、はじめ稲荷神社と称したが、明治十二年五月二十六日、社名を鞍掛上平神社と改称しました。

■桜井神社 旧村社 滋野字宮

祭神 健甕名方命 事代主命
 例祭 十月一日 他年中恒例祭儀五回
 社殿 本殿三×三間半 明造 拝殿六×三間半 祝詞殿二×三間 神庫一坪 祝詞殿半坪 社地二七坪

境内社 稲荷社 蔵島社 金月比羅社
 田金井村の産土神ではじめ諏訪社と称していましたが、明治十四年五月十二日、桜井神社と改称しました。本殿は源太郎大上の作と伝えられ、両側と裏側に彫られた彫刻が非常にすばらしい作です。

■滋野神社 旧村社 新張子滋野

祭神 健甕名方命 事代主命
 例祭 九月二十八日 他年中恒例祭儀四回
 社殿 本殿二間二尺×二間四尺流造 幣殿二間二尺×二間 拝殿四間五尺×三間 祝詞殿一間一尺×三尺 社地九七坪
 境内社 八幡社 琴平社 秋葉社 久松神社(この地のために尽した地頭久松愛行公を祀ったもの)
 口碑に「大同年中(八〇六—八二〇)牧監、牧場の長(滋野良成が新治に仕立創立する」とあるので平安初期の古いものです。

■滋野神社 旧村社 海善寺字滋野鎮

祭神 神功皇后 応神天皇 姫大神
 例祭 四月十五日 他年中恒例祭儀三回
 社殿 本殿一×一八間八造 本殿裏四坪 拝殿一〇坪 祝詞殿三坪 社地六五八坪
 境内社 戸隠社 三峯社 稲荷社 糺神社
 口碑に伝えるところによれば、田海善寺村は、その昔、海野郷内にあつて、滋野氏代々の居住の地でした。田海善寺村の産土神であり、もと八幡社と呼ばれていたこの神社は、滋野氏の祖先より氏神としてお祭りしてきたもので、その後裔の海野幸恒が再建したものとされています。

社には南面しており海野氏の旧館の地へ続いていることから海野氏と深いつながりがあることがわかり氏の鎮社として崇敬されてきました。
 また本曾義仲も白鳥河原で旗上げの際参拝したといわれます。

■白鳥神社 旧村社 本海野字北原敷

祭神 日本武尊 貞元親王 善淵王 海野広道公
 例祭 四月十一日 他年中恒例祭儀十回
 社殿 本殿一四三三×五尺流造 幣殿六坪 拝殿三五坪 社地八七六坪
 境内社 新海神社 稲荷神社 金月比羅社 阿夫利神社 御嶽社 市神社 天神社 荒神社 伊勢社 三峯社 弁天社

■白鳥神社歌碑

この海野清き流に白鳥はあしたれ初めて幾世へけん宮はしら下岩根にしまたて、霧もくもらぬ日のみかけ戦 西行法師
 久方の天に飛びにし白鳥のみ魂をここにまつこそすれ 笠原英澄

■真王神社 旧無格社 滋野字真王

祭神 天御中主神
 例祭 五月一日 他年中恒例祭儀二回
 社殿 本殿一尺五寸×一尺流造石祠 幣殿〇・五坪 拝殿五坪 社地二八坪
 かつては魔王神社といひ、疫病除けの守護神として近郷の崇敬が盛んだったといひ、作物保護神としても崇敬されてきました。

■住吉神社 旧村社 本海野字岩下

祭神 上簡之男命 中簡之男命 下簡之男命
 例祭 四月十二日 他年中恒例祭儀三回
 社殿 本殿二×一四間半 拝殿四×二間半 四二二坪
 境内社 蓋影神社 天満天神 山家神社 秋葉神社
 創立は不詳です。旧下深井村の産土神であり、はじめ住吉社と称しましたが、明治十四年三月十六日住吉神社と改称しました。
 西深井の産土神が海野地籍にあるのは、元和四年(一六八八)に真田氏の命で、深井村の住民が千曲川畔の海野新田に移住し、佐渡から江戸へ金銀その他公用物資の留場となり難立でも行なうたためです。
 (長野県町村誌)

海野宿の東端に位置している神社で、創立は景行天皇の四三年と伝えられます。日本武尊が東征の帰途にこの地にしばらくとどまり、荒れ狂う水を見られて上総の海難を思い出し「この海よ野となれ」と申されたといひます。のちに伊勢の能登野で病死され、その霊が白鳥と化して大和から河内、そしてこの里に来て止まったと伝えられます。天皇のことに従って、白鳥の止まったところに社を建て尊を祭りました。この社はその一つで、第十四代仲哀天皇が白鳥大明神の社号を賜り、また第十五代応神天皇は勅額を賜りました。もとより海野に居をかねた豪族海野氏の氏神で、現在は本海野区の氏神です。

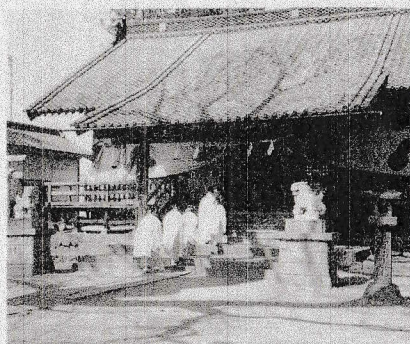
永久二年(一一四四)、海野広道が海野氏の祖といわれる貞元親王を合わせて祭り、大正年間(一九一四—一九一五)海野幸明が滋野善淵王と海野広道の霊を祭り、広大な社領を寄進しました。建久二年(一一九二)海野幸氏が社殿を現在地に移して再建、その後も海野氏と真田氏は社領を寄進して崇敬しました。また本曾義仲が依田城挙兵のとき、この神社の前の千曲川原(白鳥河原)に陣兵を集めたといわれます。弘化三年(一八四六)松代藩主の真田幸貫も水代十石を寄進しています。寛政三年(一七九一)現在の社殿を造営し、安政五年(一八五八)海野神社、明治十三年白鳥神社と改称し、拝殿を再建しました。なお、かつての北国街道沿いにあった新海神社は、天正二年(一五七三)には武田勝頼から金一四貫文、慶長六年(一六〇一)には真田信之から五貫文の地を安堵された神社でしたが、明治末に廃社となり、明治四十年に本殿のみが白鳥神社に移転されました。白鳥神社本殿より古い建物ですが、流造で大変立派です。

■住吉神社 旧村社 和字次郎淵

祭神 上簡之男命 中簡之男命 下簡之男命 菅原道真公 伊賀再命 伊賀諸尊
 例祭 四月十五日 他年中恒例祭儀三回
 社殿 本殿一五×一五間 入母屋造 拝殿四間二間
 境内社 三神社
 いつの世か、氏子一同の懇望によって、大阪住吉神社から分神を乞ひ、下深井神社として祭っていました。しかしその後、村制によつて下深井村は西海野と西深井に分かれ、西深井部の人々は行政しがいの地に神社のある不合理を思つて昭和三年四月十日の氏子会議で分社しました。こうして部落の北端に祭る今日に至っています。

■諏訪社 旧村社 滋野字諏訪森

祭神 健甕名方命 事代主命
 例祭 四月十五日 他年中恒例祭儀一回
 社殿 本殿一四×一四間一尺流造 拝殿四間半×三間 祝詞殿三坪
 宝暦八年(一七八八)、諏訪市の諏訪大社より分霊を勧請し奉祭しました。当地に宮社を建立し神社を中心にして繁栄、当時村人の産土神として尊崇されてきました。
 ■諏訪神社 旧村社 泉字宮田
 祭神 健甕名方命 事代主命



白鳥神社

■白鳥神社の社叢

社叢はもともと古く、すばらしいものです。自通り周囲五・三、樹齢七百年をこえたと推定される神木の樺の木をはじめ、目通り周囲四倍を超す樺の太木もあります。九本の樺を中心に十五・六本の杉、エング、ヒマラヤシダ等が混生しており、古く広い神社の境内にふさわしい社叢を形づくっています。特に目通り周囲二をこす黒マツの大樹は目をひきます。
 海野は宿場時代以前は海野氏の城下町として栄え、交通の要地であり、本曾義仲がここ白鳥河原で軍兵をしたともいわれます。この社叢は宿場町東端入口に

□足穗神社 旧村社 本海野字岩下

祭神 健甕名方刀美命
 例祭 四月二十日 他年中桓岡祭儀三回
 社殿 本殿一×一・五間流造 祝詞殿三×三間三尺
 拝殿五×一・間
 境内社 蜚羅社 阿夫利社 皇大神社 天神社 金刀
 水天宫 雷神社 山神社

東に鎮座し、寺の守護神であつたものよりして本堂のものに山王社といひ、長命寺境内にあつて本堂の弘化の頃（一八四四年）から津津西両町の感情衝突があつて、東町は迫直されゝ味づいた。そこで東町名主の丸山久左衛門は己々の処に神社を建築しました。長命寺古間の山王社を遷祀と稱つたので、東町の鎮座としたのです。文政十年（一八一七）十二月村科となり、明治十一年三月、津津日吉神社と改称したもので、津津東町の産土神として崇敬されていま

す。

祭社 建御名方命 事代主命
例祭 四月二十日 他年中恒例祭儀三回
社殿 本殿 拜殿 宝藏庫 石島居 創建年代不詳
宝物 神鏡三面 古代土器 神楽面四個 木鐸
境内社 天主社 皇太神社 琴平社 秋葉社 堀籠社
子安社 天神社 荒神社
田西町・姫子沢・新屋村の氏神です。安政二年（一
五五二年）津津屋神社と吉田家より改称が許可

美都穂神社
田村社
和字中井

境内社 子安社 天神社 盃影社
天和五年（一八一九）の頃社寺改めによれば社号は八幡社で海野氏の氏神でした。享保の頃は諏訪大明神と呼ばれていましたが、慶応二年（一八六六）京都吉田家より美都穂神社と改名を許され今日に至っております。旧東田沢村の産土神です。七年毎に御柱建立祭が盛大に行われます。

□宮嶽神社
田無格社
祢津

祭神 貞臣親王
例祭 四月十三日 他年中恒例祭儀三回
社殿 本殿一間二尺×一間二尺、祝詞殿三×二間
殿九間×四間三尺、敷地五九六〇坪
祭神貞臣親王は清和天皇第四の皇子で、信濃国司の
位にあったとき、この地に居住せられていたが、延
喜二年（九〇二）四月死去により奉葬してに御陵築つて
松代藩員田家より毎年米一〇石、祿津領主より米一八
石を御供料として進納されました。また両家より年々

■宮嶽神社水石

町・文化財 昭59年3月8日

上縁外側の奥行が東西一〇・五メートル、間口二・八メートルの安山岩に、厚さ一〇センチを残して深さ三五センチ程まで掘り抜き、底の西側の中央から北より、に清掃水を流したと思われる直徑二〇センチの穴があらわれている。

南側の間口二・八メートルには等間隔の溝六本が刻まれており、落とじ口としています。すぐ西側を流れる唐沢川の土流から水を導いたと思われる種跡を遺している、その余水を傍の唐沢川に流すよう設計されている。

規模は大きく、構想もよく、機能的にできた遺構で、西面に「正徳四甲午歳八月日」（一七一四）が刻まれており、上の宅地の石垣に接している東北の二面には遺立者や寄進者の銘が刻まれています。が、不明確です。

□八幡神社
旧村社
滋野字八幡

祭神 志仁天皇
 例祭 十月一日 他年中恒例祭儀四回
 社殿 本殿間口二×二間三尺瓦葺流造
 祝詞殿二間文

一間三尺 拜殿四間×二間三尺 社地三二坪
旧滋野村の八幡にあり、はじめ八幡社と称し旧片羽
村と中屋敷村の庶土神として崇敬され、明治十五年四
月六日、八幡神社と改称しました。

祭神 大山祇命
 例祭 五月十六日
 社殿 本殿二×二尺石祠流造 拝殿四×三間 社地二

申土 日寸土 申字天目卜字予了日

明治四十一年十二月二十四日に左記の九村社と
一一無格社を合併して和神社となり、栗林・大
用・中曽根・東深井・東上田・釜村田・井高の

産土神となりました。

姫子沢(愛宕神社)	軻具主神(火を守る神)
井高(八幡社)	菅田別命
釜村田(諏訪社)	建御名方命

男命

大川(大瑯磐神社)	建御名方命	前八坂刀売命
上栗林(水鷲尾神社)	建御名方命	前八坂刀売命
下栗林(諏訪社)	建御名方命	前八坂刀売命
曾根(伊勢神明宮社)	万禰登秋津姬命	天照皇太

神 天手力雄命

以上九村社と嚴島社二、加具土神社、杜宮神社、山
神社二、八阪社・宝殿社・金山社・八幡社の二無格社
道根命

を合併。
例祭 四月十五日 他年中恒例祭儀三回
社殿 本殿三尺二寸×三尺五寸春日造りけきや材板本
（東上田熊野神社から移転） 祝詞殿 拝殿
社務所（東上田熊野神社から移転） 東側御札
所 祭器庫 一の鳥居（台輪付神明鳥居屋）元
和一年（二六二六）三月 畠根神明宮から移転
境内社 保食社 天御中主社 雷神社 子安社 秋葉
社 別雷社